

## 第1部 北区の概要

北区は、旧有馬郡の有馬町、有野村、道場村、八多村、大沢村、長尾村、武庫郡の山田村、美囊郡の淡河村の8カ町村が、昭和22年から33年にかけて神戸市兵庫区に編入された後、昭和48年8月1日、兵庫区から分区して誕生した。

区の面積は、241.84km<sup>2</sup>で全市の約44%を占め、9区の中では最大となっており、人口も垂水区について2番目に多い区となっている。

(平成7年10月1日 国勢調査人口)

所管面積	241.84km <sup>2</sup>
世帯数	77,142世帯
人口	230,471人
人口密度	953人/km <sup>2</sup>

北区の特色は、緑が非常に多く自然環境に恵まれていることである。六甲の山並みはたいへん美しく、その山並みに抱かれた有馬温泉は全国的に有名な保養リゾート地である。

また、自然を生かした緑と人とのふれあいの場づくりが進められており、「森林植物園」や「神戸青少年公園」などの施設が整備され、農業振興や都市と農村の交流の場として「フルーツ・フラワーパーク」がある。

北区は、古くからの農村地域と住宅団地地域に二分される。

六甲山系の北側や帝釈・丹生山系のふもとに広がる農村地域は、農作物の安定的な供給拠点であると同時に、神戸の自然と緑を保全する憩いとやすらぎの場として重要な役割を担っている。また、茅葺き民家、農村舞台や社寺など歴史的にも貴重な文化財を有し、民俗芸能などの伝統文化を保存・継承している。

神戸電鉄沿線に広がる団地地域は、神戸のベッドタウンの中核をなしており、藤原台や神戸リサーチパークなどをはじめとして、今後一層の人口定着が進むものと思われる。

北区南部の中心・鈴蘭台では、駅周辺の再開発計画の進展が期待されている。

区の南西端には、総合福祉ゾーンとして「しあわせの村」があり、高齢者や障害者をはじめ、すべての市民がふれあう場となっている。

また、北区では、阪神高速道路北神戸線及び北延伸線、山陽自動車道など幹線道路網の整備が進められており「神戸の北の玄関口」として重要性がますます増してくるものと思われる。

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災は、神戸に未曾有の被害をもたらした。北区でも、多くの人が被害にあい、ライフラインや交通機関の寸断、家屋の損壊や宅地の崩壊等、大きな痛手を受けた。

その一方で、北区は、甚大な被害を受けた旧市街地の支援拠点となり、神戸の市民生活や都市活動で重要な役割を担ったが、現行の道路交通網では、容量不足で大渋滞が生じた。特に市街地と結ぶ南北道路や有馬街道は顕著であり、早急な改善・整備が望まれる。

